

市議会を取り扱うことがらは、数も非常に多く、内容もいろいろな分野にわたっているので、いくつかの部門に分けて、専門的に、また能率的に調査したり、話し合いをしたりするために設けられているグループを『委員会』といいます。鳥取市議会には、次のような委員会があります。

●議会運営委員会（9人）

議会の進め方やルールを決めます。

【常任委員会】

議案などを効率的かつ専門的に審査を行うため、次の4つの常任委員会を設置し、それぞれの事項を所管しています。

●総務企画委員会（8人）

市全体の仕事の進め方や、税金の使いみちなどについて話し合います。

●福祉保健委員会（8人）

市民の暮らしや健康、また子どもを育てる環境について話し合います。

●文教経済委員会（8人）

学校に関することのほか、経済に関すること、農業・漁業に関することについて話し合います。

●建設水道委員会（8人）

水道に関すること、道路や住宅、ダムや橋に関することを話し合います。

【特別委員会】

常任委員会とは異なり、特定のことに、そのつど設置して話し合います。

●本庁舎跡地等活用に関する調査特別委員会（9人）

●予算審査特別委員会（各常任委員会と同様が通例）

（2月定例会）予算が議会に提出された際、その審査のために設置され審査されます。

●決算審査特別委員会（各常任委員会と同様が通例）

（9月定例会）決算が議会に提出された際、その審査のために設置され審査されます。

【協議の場】

●全員協議会（全32名）

市政上の重要な問題について検討するために議員全員が集まって開かれる会議です。市長などの執行機関から説明を受けたり、意見を述べたりします。

●議会広報委員会（7名）

議会活動を市民に周知するため、多様な手段を活用し、積極的な広報に努めています。

●議会改革特別委員会（9人）

市民に信頼され、開かれた議会を目指し、更なる議会改革を図っています。

【予算審査特別委員会（H31年度）】

●総務企画分科会

「各総合支所の既存事業を継続させるだけでなく、総合支所と本庁担当課が連携を密にし、地域とも連携しながら、より創意工夫を重ねて、さらなる地域活性化を要望」

●福祉保健分科会

「さらに体制を強化され、職員が相談者と向き合う時間をしっかり確保し、妊娠期からの切れ目のない支援の向上を要望」

●文教経済分科会

「教職員の負担軽減は重要な視点。2校を指定して午前5時間制の先進実践により、教職員が午後から効率的な教育活動を行うことを評価」

●建設水道分科会

「公共交通空白地域への生活交通対策の促進、路線バスの利便性向上や、利用促進を図ることを要望」

●本庁舎跡地利用等活用分科会

「中心市街地の駐車場不足があり、庁舎移転後も引き続き駐車場開放を望むとともに、平日の警備員がいなくなることから安全面に配慮した管理を求める」

【決算審査特別委員会（H29年度）】

●総務企画分科会

「多様な災害に備え、自主防災会に効率的かつ積極的に働きかけ、防災力の向上につながる施策展開を求める」

●福祉保健分科会

「需要の多い病児保育について、鳥取市立病院と積極的な連携により受入れ可能となるよう求める」

●文教経済分科会

「教育委員会と健康こども部が日常から連携をさらに深め、子供たちの貧困対策が効果的に推進されるよう求める」

●建設水道分科会

「河川や道路など、市民生活に密着した要望があるなか、多額の不用額の発生あり、可能な限り市民の期待に応えられるよう事業の遂行を求める」

●新庁舎建設分科会

「地元への経済効果を重視した取り組みを進められるよう求める」